

平成26年度 果樹情報 第8号
(平成26年7月2日)

福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (6月後半：果樹研究所)

6月後半の平均気温は、4半旬が21.5℃で平年より1.0℃、5半旬が20.8℃で平年より0.5℃、6半旬が21.3℃で平年より0.4℃高く、この期間の降水量は144.0mmで平年の175% でした。

2 土壌の水分状況 (7月1日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ40cmが1.4、深さ60cmが1.2で、やや過湿状態にあります。

3 生育状況 (果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大 (7月1日現在 暦日比較)

「あかつき」の縦径は51.0mmで平年比109%、側径が51.2mmで平年比114%、「ゆうぞら」の縦径は47.5mmで平年比103%、側径が44.1mmで平年比108%と各々平年より大きい状況です。

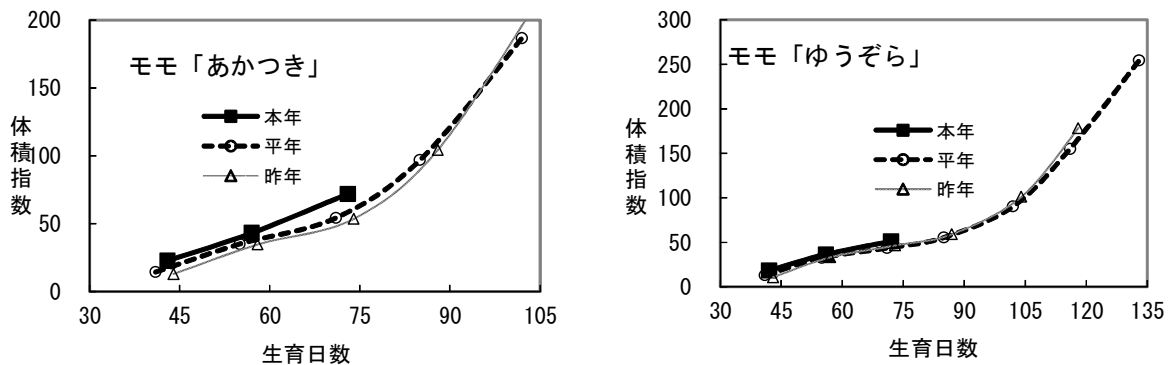


図1 ももの果実肥大

イ 新梢生長 (満開後69日 品種：あかつき)

新梢長は平年比64%と短く、展葉数は平年比84%と少なく、葉色 (SPAD値) は平年比103%と平年並で新梢停止は早い状況でした。

ウ 核障害の発生 (満開後70日 品種：あかつき)

核頂部亀裂の発生率は40%とやや多く、縫合面の割裂は30%で平年並でした。

エ 硬核期終了日と収穫期予測 (品種：あかつき)

硬核期間は平年よりやや短く、硬核期の終了は6月27日頃でした。また、7月1日現在、DVRモデルによる収穫期の予測では、収穫開始は8月1日頃、収穫盛りは8月5日頃で平年より1日程度早くなる見込みです。

表1 もも「あかつき」の発育予測 (7月1日現在)

品 種	硬核開始日			収穫開始日			収穫盛日		
	本年	平年	平年差	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	6/ 8	6/11	3日早い	8/ 1	8/ 2	1日早い	8/ 5	8/ 6	1日早い

※ 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1981年～2012年の平均。

(2) なし

ア 果実肥大 (7月1日現在 暦日比較)

「幸水」の縦径は35.9mmで平年比114%、横径が42.8mmで平年比116%、「豊水」の縦径は37.0mmで平年比112%、横径が40.7mmで平年比116%と各々平年より大きい状況です。

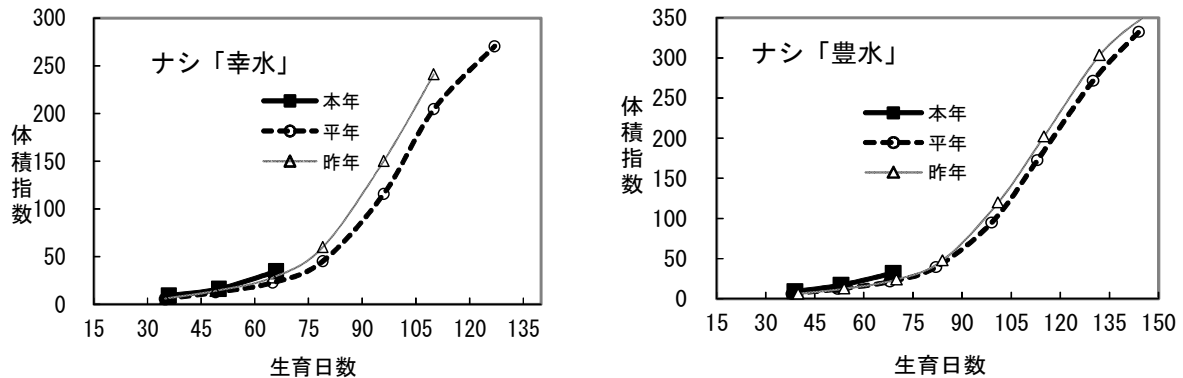


図2 なしの果実肥大

イ 新梢生長 (満開後60日 品種：幸水)

予備枝新梢長は119.7cmで平年比122%と平年より長く、不定芽新梢長は87.0cmで平年比101%と平年並の状況でした。

ウ 生育予測 (7月1日現在 品種：幸水)

DVRモデルによる収穫予測では、収穫盛期が8月30日で平年より3日早いと予測されます。また、同モデルによる裂果初発日は7月15日と予測されます。

表2 「幸水」の満開後60日における新梢生長

予備枝新梢長 (cm)			不定芽新梢長 (cm)			予備枝葉数 (枚)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
119.7	98.4	122	87.0	86.3	101	27.4	26.3	104

※ 平年値：新梢長、新梢停止率は1990年～2013年、葉枚数は1998年～2013年の平均値

(3) りんご

ア 果実肥大 (7月1日現在 暦日比較)

「つがる」の縦径は50.1mmで平年比103%、横径が57.7mmで平年比106%、「ふじ」の縦径は46.5mmで平年比106%、横径が51.1mmで平年比110%と各々平年より大きい状況です。

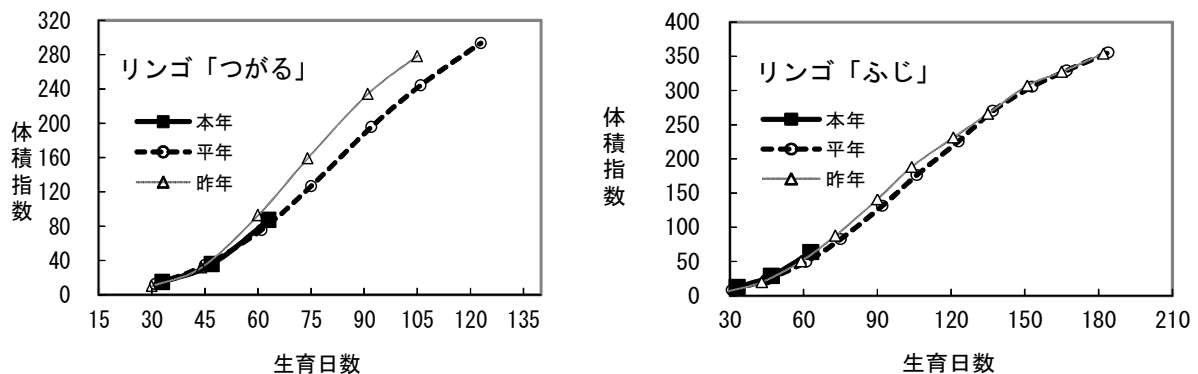


図3 りんごの果実肥大

イ 新梢生長（満開後50日 品種：ふじ）

新梢長は23.4cmで平年比122%と平年より長く、目通り部付近の葉色SPAD値は49.5で平年より高い傾向です。

表3 リンゴ新梢長（cm）及び新梢停止率（%）

満開後 日数	つがる				ふじ			
	本年	平年	平年比(%)	新梢停止率	本年	平年	平年比(%)	新梢停止率
40	23.6	20.0	118	53.3	23.4	19.1	123	100
50	24.5	20.7	118	95.6	23.4	19.2	122	100

(4) ぶどう

ア 新梢生長（発芽後70日）

「巨峰」（有核栽培）の新梢長は、77.1cmで平年比95%とやや短く、展葉数は14.9枚で平年比99%とほぼ平年並の状況です。

東北地方1か月予報(仙台管区気象台 平成26年6月26日発表)

今後の気温の経過は、1週目（6月28日～7月4日）は高い及び平年並の確率が各々40%、2週目（7月5日～7月11日）は平年並の確率が40%、3～4週目（7月12日～7月25日）は低い確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

4 栽培上の留意点

(1) もも

ア 早生品種の収穫

胚に障害を持つ果実は成熟が早まりやすい傾向にあります。このため、果肉の軟化に注意し収穫が遅れないように注意しましょう。

イ 修正摘果

硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら修正摘果を実施しましょう。

特に ① 果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実

② 果面からヤニが噴出している果実

③ 果皮および果肉が変色している果実

④ 果頂部の着色が早い果実

等は、核や胚に障害がある場合が多いので、これらに注意して摘果を行いましょう。

また、核障害の発生が多い園では、修正摘果は2～3回に分けて実施し、形質の良い果実を残すように努めましょう。

ウ 中生品種の収穫前管理

「あかつき」等の中生種は今月中旬以降には着色期に入ると考えられます。夏季せん定、枝吊り・支柱立て、反射シートの敷設等、収穫前の管理作業は計画的に実施しましょう。

(3) なし

ア 新梢管理

幸水の新梢は、裂果初発日の3日後頃に停止します。新梢の誘引は、生育が旺盛な時期に実施すると効果的ですので、裂果初発予想日の10日前頃がピークとなるよう行いましょう。

イ 着果管理

仕上げ摘果は速やかに終了しましょう。着果過多にならないよう、単位面積あたりの着果量を確認しながら作業を進めましょう。なお、裂果期間中の摘果は、他の果実の裂果を助長するおそれがあるので控えましょう。

(4) りんご

ア 着果管理

7月は花芽分化期に入るため、早急に仕上げ摘果を終了しましょう。

仕上げ摘果終了後は、小玉果や変形果、病害虫の被害果、傷果、サビ果等を随時修正摘果しましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実肥大にともない枝が下垂すると、樹冠内部や下部の日当たりが悪化し、果実の着色不良等の原因となります。樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止のため、枝吊り・支柱立てを実施しましょう。

(5) ぶどう

ア 着房数管理

着房過多は、糖度の上昇を妨げ、赤熟れ果等の要因となりますので、ベレゾーン（水周り）期までに着房数の見直しを行いましょう。

最終着房数の目安は「巨峰」では3.3m² 当たり9～10房、「高尾」では10～11房とし、1新梢当たり1房を心掛け、弱い新梢は摘房しましょう。

イ 摘粒

摘粒は、「巨峰」は一房30～35粒、「高尾」は40～50粒を目安に行いましょう。なお、内側に入り込んだ果粒、飛び出している果粒を中心に取り除き、密着した円筒形の房型に整形し、収穫後の脱粒を防ぎましょう。

この時期以降は穂軸を持って作業する等、果粉の（ブルーム）の溶脱には十分注意しましょう。

ウ 袋掛け

袋掛けは、日中の気温が30℃以上となる条件下では、袋内温度の急激な上昇による日焼け果の発生が助長されるので注意しましょう。なお、袋掛けと同時にかさ掛けを行うと日焼け防止に有効です。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご輪紋病・斑点落葉病・褐斑病・腐らん病

梅雨期は輪紋病、斑点落葉病、褐斑病の重点防除期に当たるので防除を徹底しましょう。

また、腐らん病の発生が増加傾向にあります。枝腐らんや胴腐らんは、病患部の周囲の健全部まで5cm程度を切り取る若しくは削り取るよう心掛けましょう。

イ ももせん孔細菌病

県北地域では、5月下旬の春型枝病斑の発生ほ場割合が高く、6月に入ってから新梢葉の発生ほ場割合も高い状況となっています（病害虫防除所、平成26年6月9日付け病害虫発生予察情報注意報第2号）。

梅雨期に降水量が多いと二次感染による発病が増加するおそれがありますので、今後とも引き続き注意が必要です。園内の春型枝病斑や発病葉、被害果は徹底してせん除、摘除しましょう。

発生が見られる園では、10日間隔で同病の防除剤を散布しましょう。なお、早生種では使用薬剤の収穫前日数に十分注意しましょう。

ウ もも灰星病・ホモプシス腐敗病

早生種では灰星病の重要防除時期にあたるので、7月上旬および中旬に灰星病防除剤を散布しましょう。中～晩生種では灰星病とホモプシス腐敗病の同時防除が必要となるので、7月10日頃にいずれの病害にも効果がある薬剤を散布しましょう。

エ なし黒星病・輪紋病

梅雨期は、黒星病と輪紋病の重点防除期となりますので、今後は両病害に効果がある薬剤を十分量散布しましょう。

なお、多発が予想される場合は、梅雨明けまで7日間隔で散布を行いましょう。

オ ぶどう晩腐病・べと病

薬剤散布直後に袋掛けを行い、菌の包み込みを防ぎましょう。

(2) 虫 害

ア 主要鱗翅目害虫

現在の主要鱗翅目害虫の発生時期は平年よりやや早く推移しています。フェロモントラップ調査による発生消長などを参考に防除適期を逃さないようにしましょう。

イ ナシヒメシンクイ

第2世代の防除適期は6月6半旬頃だったと推定されます。まだ防除を実施していない場合には速やかに実施しましょう。本種はもも等の核果類の新梢伸長が停止するとなし果実への寄生が増加します。また、高温年は交信かく乱剤のフェロモン成分が急激に揮発するため、7月下旬頃から交信かく乱効果が低下することがあります。例年、なしの果実被害が多い地域では、今回の世代から防除を徹底しましょう。

ウ モモノゴマダラノメイガ

本種の誘殺は7月上～中旬に一旦少なくなった後、7月下旬頃から再び増加します。被害が予想されるもも園では、7月2半旬頃まで防除を継続しましょう。被害果実は見つけしだい摘除して5日以上水漬けするか、土中深く埋めましょう。

エ モモハモグリガ

モモハモグリガの第3世代の防除適期は7月1半旬頃と推定されます。本種の発生には無防除のハナモモ園や放任園などが影響していると考えられるため、無防除園の管理や放任園の伐採等を行いましょう。

オ ハダニ類

高温が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

表4 主要鱗翅目害虫の防除時期の推定（果樹研究所 平成26年7月1日現在）

今後の気温 予測	ナシヒメシンクイ		モモハモグリガ	
	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第2世代 成虫盛期	第3世代 防除適期
2℃高い	6月18日	6月27日	6月26日	7月1日
平年並み	6月18日	6月27日	6月26日	7月1日
2℃低い	6月18日	6月27日	6月26日	7月2日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日：ナシヒメシンクイ 4月28日、モモハモグリガ 6月1日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyohou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>